

コロンビア月例報告（8月分）

外政・内政状況

2012年9月

コロンビア日本大使館

I 概要

【外政】

- 7月31日～8月2日 バーンズ米国務次官のコロンビア訪問
- 3日 オルギン外相のエクアドル訪問
- 14日 サントス大統領のドミニカ共和国大統領就任式出席
- 17日 オルギン外相の南太平洋委員会（CPPS）出席（於：エクアドル）
- 19日 オルギン外相の UNASUR 臨時外相会合（於：エクアドル）
- 20日 エスピノサ・メキシコ外相のコロンビア訪問
- 24日 オルギン外相の第27回米州機構（OAS）外相会議（於：米）
- 29日 オルギン外相の太平洋同盟閣僚級会合出席（於：メキシコ）

【内政】

- 5日 エル・ニーニョ現象による干魃の発生
- 7日 サントス大統領による前半2年間の総括
- 8日 新政党「ピド・ラ・パラブラ」党（仮称）の結成表明
- 8日 麻薬犯罪組織「エンビガド事務所」首魁の逮捕
- 9日 FARCによるカウカ、バジェ、ナリーニョ各県におけるテロ事件
- 12日 対人地雷被害者に関する政府発表
- 15日 サントス大統領の先住民族との対話
- 20日 犠牲者救済・土地返還法の実施状況
- 20日 サントヨ大佐（ウリベ前大統領身辺警護隊長）の逮捕
- 22～31日 内閣改造
- 27日 政府とFARCとの対話の模索
- 28日 ロンドーニョ元内務法務大臣に対するテロ事件実行犯の逮捕

II 本文

【外政】

1 バーンズ米国務次官のコロンビア訪問

7月31日～8月2日、バーンズ米国務次官は、第3回コロンビア・米ハイレベル二国間対話に出席するためコロンビアを訪問、サントス大統領表敬した他、オルギン外相及びピンソン国防大臣と会談を行った。同次官は、犠牲者救済法の実施を支援するため、5千万ドルを拠出すると発表した。

2 オルギン外相のエクアドル訪問

3日、オルギン外相は、グアヤキル（エクアドル）を訪問し、10月3～4日に開催予定の両国首脳会合準備としてパティニーニョ・エクアドル外相と会談を行ない、道路インフラ整備及び国境に関する協力につき、意見交換を行った。

3 サントス大統領のドミニカ共和国大統領就任式出席

14日、サントス大統領とオルギン外相は、メディナ新ドミニカ共和国大統領就任式に出席、協力関係を推進した。

4 オルギン外相の南太平洋委員会（CPPS）出席（於：エクアドル）

17日、オルギン外相は、ガラパゴス島（エクアドル）で開催された南太平洋委員会（CPPS）第8回外相会合に出席、海洋・沿岸の資源管理の方策について意見交換を行った。

5 オルギン外相の UNASUR 臨時外相会合（於：エクアドル）

19日、オルギン外相は、グアヤキル（エクアドル）を訪問し、UNASUR 臨時外相会合に出席、在英エクアドル大使館施設の侵入の威嚇の前にエクアドルに対する支持を表明した。

6 エスピノサ・メキシコ外相のコロンビア訪問

20日、エスピノサ・メキシコ外相は、カルタヘナを訪問、オルギン外相と会談を行い、二国間経済関係の強化及び地域協力やグローバルな課題等につき、広く意見交換を行った。太平洋同盟については、今後、アジア市場との結びつきを深めるため、迅速に成果を追求していくことで一致した。

7 オルギン外相の第27回米州機構（OAS）外相会議（於：米）

24日、オルギン外相はワシントン（米）で開催された第27回米州機構（OAS）外相会議に出席した。OASは、エクアドルへの連帯決議を採択した。

8 オルギン外相の太平洋同盟閣僚級会合出席（於：メキシコ）

29日、オルギン外相は、メキシコで開催された太平洋同盟閣僚級会合に出席、先週にチリで行われた高級事務レベル会合（GAN）の成果に基づき、統合や人の移動、制度的事項等につき、意見交換を行った。また、太平洋同盟「企業家協議会」（Consejo Empresarial）の発足に伴い、企業家との対話も行った。

【内政】

1 エル・ニーニョ現象による干魃の発生

5日、気象庁（IDEAM）は、エル・ニーニョ現象が続き、干魃被害が広範囲に及ぶ可能性が強まっているため、一部地域では、降水量が確保されているものの、山火事予防等の注意が必要となっていると発表した。

2 サントス大統領による政権前半2年間の総括

7月23日～8月6日、サントス大統領は、閣僚と主に、地方訪問を行い、政権前半の2年間についての対話を行った。7日、サントス大統領は、治安、雇用創出、貧困対策について、大きな成果があったことを強調、また、外交政策についても、近隣諸国との改善等において、大きな前進があったと述べた。

3 新政党「ピド・ラ・パラブラ」党（仮称）の結成表明

8日、アントニオ・ナバロ（M-19元構成員、ナリーニョ元県知事）、アンタナス・モクス（元大統領候補、元ボゴタ市長）、セシリア・ロペス（元環境大臣）、アロンソ・サラサル（元メデジン市長）らは、2年後の大統領・議員選挙をにらみつつ、新政党「ピド・ラ・パラブラ」党（仮称）の結成を表明した。今後、法的手続を了し、次回選挙で議席を獲得する必要がある。

4 麻薬犯罪組織「エンビガド事務所」首魁の逮捕

8日、捜査当局は、2年近くの内偵捜査を経て、麻薬犯罪組織「エンビガド事務所」首魁であるエリクソン・バルガス（通称：セバスティアン）を逮捕した。同組織は、パブロ・エスコバル率いたメデジン・カルテル残党で、メデジン市を中心とした麻薬取引や暗殺、脅迫、違法資金洗浄等に従事するコロンビア最大規模の犯罪組織。

5 FARCによるカウカ、バジェ、ナリーニョ各県におけるテロ事件

9日、FARCは、カウカ、バジェ、ナリーニョ各県において、送電所や電力塔等を破壊、9つの市町村で長時間にわたり、停電が発生した。

6 対人地雷被害者に関する政府発表

12日、当局は、2011年、FARCや非合法武装勢力（BACRIM）によって敷設された地雷により、97名が殺害され、452名が負傷したと発表した。オタワ条約上、政府は2021年までに、国内の地雷を全て除去する義務を負っているが、履行が困難であるため、期限延長を要請する可能性がある。

7 サントス大統領の先住民族との対話

15日、サントス大統領は、カウカ県を訪れ、先住民族のリーダーと対話を行った。同地域では、FARCと国軍の対立による先住民族の被害が甚大となっており、大統領は、政府として、遺憾の意を表明した上で、平和の構築のために、協働したいと呼びかけた。

8 犠牲者救済・土地返還法の実施状況

20日、サントス大統領は、犠牲者救済・土地返還法の実施状況について発表した。本年1～7月、国内武力紛争の犠牲者5,500人が、合計3千3百億ペソの補償を受領したと述べ、政府は、年内に、11.5万人の救済を目標としている。土地返還については、18,500件、150万ヘクタールの入植への要求があったと述べた。

9 サントヨ大佐（ウリベ前大統領身辺警護隊長）の逮捕

麻薬取引への関与やパラミタリー組織との癒着により逮捕され、米国に引き渡されていたサントヨ大佐（ウリベ前大統領身辺警護隊長）は、20日、米国当局との司法取引に応じ、情報提供と引き替えに、刑の軽減及び家族の庇護の権利を得た。今後、サントヨ大佐の証言に基づき、国軍及び国家警察に対する捜査が行われる見通し。

10 内閣改造

22日、16名の全閣僚より、サントス大統領に対し、今後の政策遂行のため、必要に応じ、辞任する用意があるとする書簡が提出されたのを受け、31日までに下記の内閣改造が行われた。

23日、カルデナス鉱山エネルギー大臣が、財務公債大臣に任命された。

24日、ペニャロサ運輸大臣が辞任した。

28日、アルバレス＝コレア・グレン適応基金事務局長（適応基金は、2010年、長雨被害対策基金として、財務公債省下に設置され、住宅供給等のプロジェクトを実施する基金）が任命された。

30日、アレハンドロ・ガビリアロス・アンデス大学経済学部長が、ロンドーニョ厚生・社会保障大臣の後任に任命された。

31日、鉱山・エネルギー大臣として、レニッフォ内務大臣が、またフェルナンド・カリージョ氏が新内務大臣に任命された。カリージョ氏は、現在、国家弁護庁長官（注：国家に対する訴訟を担当する庁（Agencia para la Defensa del Estado）で、本年3月に創設された）を務めている。また、環境・持続可能な開発大臣にファン・ウリベ氏が任命された。同氏は、当地保守系有力日刊紙エル・ヌエボ・シグロの創業者一族出身で、現在、同社社長を務めている。

11 政府とFARCとの対話の模索

27日夜、サントス大統領は、国内武力紛争を終結させるため、FARCとの対話を模索していると述べた。また、その際、過去の過ちを繰り返さない、紛争を長引かせるようなプロセスにはしない、国土における軍事プレゼンス及び作戦の遂行は継続するといった原則を明らかにした。なお、ELNも、対話に参加する可能性が取り沙汰されている。

12 ロンドーニョ元内務法務大臣に対するテロ事件実行犯の逮捕

28日、捜査当局は、5月15日にボゴタ市内で発生したロンドーニョ元内務法務大臣を狙った爆弾テロ事件の容疑者として、カリ市を拠点とする犯罪組織「パルチェ・デ・スレイ」メンバーら5名を逮捕した。実行犯は、同組織に所属する16歳の未成年で、別件（武器の違法取引）でカリ市内の刑務所に身柄を拘束されていたことから、同所において逮捕された。なお、少年の自宅から本件の有力な証拠とされる携帯電話機のSIMカードが発見されている。実行犯は16歳の未成年であることから、刑事罰は最高でも8年となる見込み。

（了）